

すわこ文化村第65回企画 広島・長崎…原爆の日にあなたと

フランス人監督がひとりの被爆医師の最後の言葉を追ったドキュメンタリー。

1945年8月6日の原爆投下の日

広島近郊で被爆者の治療にあたった医師が問いかけるものは――

マルク・ブティジャン監督

ヒロシマ、 そしてフクシマ

上映時間 80分

みなさん、
肥田舜太郎医師を
ご存知ですか？



—肥田医師は1945年8月、若い軍医として広島で原爆に遭遇し、以来70年間被爆者の治療を続け、内部被爆の脅威を突きとめ、世界に向かって反核を訴えてきた。

「いわゆる放射線被害というものは、どんな形であれ、二度とあってはいけない。どんな小さな規模と言っても、専門家が安心だと言っても、全くの嘘ですから。放射能というものは人間の手にはおえない」

かつてのアメリカ占領軍がそうしたように、原発再稼働を画策する安倍政権は、核による恐ろしい被害の実情を隠ぺいしようと必死になっている――

「放射線被害というものは、
どんな形であれ
二度とあってはいけない。」

2016 8月7日(日)

3回上映

午前10時／午後1時30分／5時 開始

～各回 ともトークシェア約1時間～

会場

諏訪湖ハイツ コンベンションホール(中3階)

参加費

1000円(中～大学生500円)

お問合せ

TEL 080-1040-7463

